

## 令和3年度労災疾病臨床研究事業

産業医制度に関する課題把握と産業医の育成および質の向上による課題解決のための調査研究（研究代表者：森 晃爾 産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学・教授）

### 研究結果の概要

産業医の量および質の両面における需給関係を改善するために、産業医制度に関する課題を正確に把握し、産業医の育成や産業保健活動の質の向上に寄与するための基礎資料を作成することを目的に、3年間にわたって必要な検討を行うこととし、その初年度として12の分担研究を行った。

#### 1. 「産業医の需給に関する課題の明確化と解決策の方向性の検討」

現在までに公開されている産業医数に関する事項が記載されている資料を、労働供給のどの次元を捉えているかを分類した。産業医供給の課題に関し定性的な分析が行われている資料として、産業医需要供給実態調査・地域調査の資料を用い注目語を抽出し分類を行った。その結果、産業医の労働供給量に関しての整備状況を明確化した。産業医の供給および需給に関して現在挙げられている課題や用語が、労働供給、要因、労働市場の情報不完全性のなかで、どのような用語、言及で示されているかが明確になった。

#### 2. 「すべての産業医に必要な能力の検討」

先行研究で作成された“すべての産業医”に求められる実務能力について、その後の法改正や環境変化による修正の必要性を検討した。グループディスカッションや労働衛生専門官等から意見聴取を行い、最終的に“すべての産業医”に求められる実務能力の51項目版が作成された。

#### 3. 「遠隔通信機器を用いた産業医活動に必要な能力及び留意点に関するインタビュー調査」

遠隔通信機器を用いた活動を経験した各産業医が持つ暗黙知を形式知化し、それらを統合して、遠隔産業医活動の可能性と留意点をまとめるために、インタビュー調査を行った。その結果、遠隔通信機器の活用の多くの有用性が挙げられた。また、活用可能なツールの具体例や、必要とされる事前準備、機器の活用が不適切な場面について整理できた。

#### 4. 「産業医の初期教育プログラム開発方針の検討」

“すべての産業医”に必要な能力のリストで挙げられた項目について、産業医資格を取得したすべての医師がその内容を身に着け、実践力を向上させることが重要であり、そのための教育プログラムの開発を目的として、教育プログラム作成の方針を検討した。対象として、実務経験がない、あるいは経験が浅い産業医を想定し、また教育目標は「医学知識」、「産業医

学知識」、「個人要因（の聴取）」、「職場要因（の聴取）」、「個人へのアプローチ」、「職場へのアプローチ」の6要素に分類し、これらをバランスよく習得することとした。また、教育プログラムの構成は、実践力を習得しやすいよう、事例検討やワーク、動画教材の活用など実地形式のプログラムを中心とすることとした。

#### 5. 「産業医研修の実態調査」

産業医研修の実態を調査するために、日本医師会認定産業医制度の「生涯研修」として単位申請された研修会のタイトルを分類、集計した。その結果、更新研修で取り扱われた頻度の多いテーマは、働き方改革、労働安全衛生法の改正、ストレスチェック、過重労働対策、長時間労働対策等であった。実地研修では、メンタルヘルス対策、作業環境管理・作業管理、職場巡視と討論が多かった。

#### 6. 「産業医の初期段階の能力向上のためのプログラム開発」

優先順位が高いと考えられるテーマとして、①健康診断の結果に基づいて特に健康の保持に努める必要があると認める労働者に対し保健指導を行う、②過重労働による健康障害を防止するため事業者が講ずべき措置に関し助言指導を行う、③長時間労働者に対する面接指導を行い、対象者の心身の健康状態や疲労蓄積度、抑うつ等の評価を行い、健康を保持するために必要な意見を述べる、④面接指導を申し込んだ高ストレス者に対する面接指導を行い、対象者の心身の健康状態の評価を行い、必要な措置について意見を述べる、⑤職場巡視を適切に実施し、職場に存在する健康障害要因の同定・評価を行う、を取り上げ、テーマごとに90分または120分の研修時間を想定したプログラム案を作成した

#### 7. 「自律的な産業医活動やキャリアに合わせた産業医活動を支援するための既存プログラム」

産業医科大学と日本産業衛生学会が提供している既存プログラムの収集分析を行った。その結果、産業医科大学の産業医学実践研究の13プログラム、日本産業衛生学会の産業医プロフェッショナルコースおよび学術大会のシンポジウムの内容を整理した。

#### 8. 「若手産業医のキャリアパスのイメージと課題に関するインタビュー調査」

産業医としてのキャリアを開始して間もない医師に対してグループインタビューを行い、若手産業医が持つ今後のキャリアイメージとキャリア形成上の課題を聴取した。内容分析の結果、現在の状況は5つの大項目および22の中項目に分類され、今後の課題は5つの大項目および26の中項目に分類された。現在の状況における5つの大項目は「なりたい自分の像」「働く前提」「専門性の向上」「大切にしていること」「ポジションについて」、今後の課題における5つの大項目は「企業内における課題」「情報と企業外ネットワーク」「キャリア形成のための情報」「ライフプランにおける課題」「発信」であった。

## 9. 「専門産業医のキャリアパスに関するインタビュー調査」

産業医のキャリアパスの指針とするため、20年以上の産業医学領域での経験がある医師に対してインタビュー調査を行った。その結果、対象者は産業医をキャリアアイデンティティとしながらも、多様な経験を積んでいた。インタビューの内容は、“産業医になる環境やきっかけ”、“産業医の専門性を身に着ける上での環境”、“転職の背景”、“産業医としてのキャリアに対する確信イメージ”、“専門性を高める上での更なる取組”、“今後のキャリア”、“社会への貢献”、“後進の産業医のキャリア上の課題”に分けられた。

## 10. 「専属産業医を想定した企業内キャリアパスに関する事例調査」

経験が少ない段階で専属産業医となった若手医師が、長期にわたって特定の企業で専属産業医としてキャリアを形成できているような企業（8社）の統括産業医に対して、キャリアパスという視点から企業の産業医育成体制等に関する現状を聴取した。産業保健の自律的な取組みが進む中で、産業保健組織を構築して、全社で整合性が取れた産業保健サービスを提供する企業または企業グループでは、産業医の雇用維持力を強化し、質の高い産業保健サービスを提供するために、統括産業医を置いて、企業内で産業医キャリアの形成を図るための制度的または個別的な支援が行われている事例が得られた。

## 11. 「産業医活動の健康・安全リスク低減による効果検証」

産業保健活動のリスク低減についての文献的検討を行い、現状における産業保健のリスク低減効果を検討した。また、効果を主観的指標による評価である Analytic Hierarchy Process(AHP)法を用いて数量化するために産業医活動を健康リスク低減、安全リスク低減、作業能力・生産を指標として階層構造に分類した。さらに、産業保健によるリスク低減を質的に分析するために、リスク低減事例を収集した。

## 12. 「産業医活動の健康経営的指標による効果検証」

健康経営に関する認定事業で評価に用いる健康経営度調査票の個票データ（2019年度）を利用し、企業レベルでの常勤の産業保健スタッフの有無と従業員の健康状態や生活習慣との関係を明らかにすることを目的とした分析を行った。その結果、常勤の産業保健スタッフの存在は、良好な喫煙率および適切な高血圧管理状況と関連していた。